道教大附属函館中に

国研 教育課程実践検証協力校・国語

CBT学習、指導の変化等調査

【函館発】道教育大学附属函館中学校（中村吉秀校長）は本年度、国立教育政策研究所・教育課程実践検証協力校事業の協力校に指定された。各教科等の教育課程に関するものとして、国語の協力校に選定。国研はICTを利用した教育データの測定などを目的に、同校がこれまで取り組んできたCBTを取り入れた学習の実態や、特定の教員における指導の経年変化について情報収集する。

同事業は国公私立の幼稚園、小・中学校、高校、中等教育学校等で幼児児童生徒が学習に取り組む様子を視察し、国が示す施策の反映状況などを情報収集することが目的。「各教科等の教育課程に関するもの」と、文部科学省が整備するCBTシステムMEXCBT（メクビット）に関する研究などを目的とした「E―Assessmentに関するもの」「学校全体で取り組むもの」の3つのカテゴリーがある。

同校は、前年度から全教科でCBTを利活用した形成的評価の実現に取り組んでおり、小テストや定期考査でグーグルフォームを扱った実践や研究を重ねてきた。

個々の学習状況を瞬時に教職員と共有することで、生徒は蓄積された学習記録をもとに自己調整学習に取り組むことができるほか、教職員は授業の振り返りに役立てられるなどのメリットが検証されている。

国研は、こうした実践に関する情報収集を目的に、同校を「各教科等の教育課程に関するもの・国語」の協力校に指定。9、10月に鈴木太郎教育課程調査官が全学年の国語科の授業を視察する予定で、米田真琴教諭（1年）、阿部奈央美教諭（2年）、森谷剛教諭（3年）の3人の授業が対象となる。

うち阿部教諭は前年度同事業の指定を受けていた北斗市立上磯中学校からことし4月同校に赴任。当時、2年生国語科の意見文を書く授業について鈴木調査官から指導助言を受けている。生徒の学習状況を把握するため、1人1台端末を活用し生徒と「構成メモ」を共有して生徒のつまづきを把握するなど、ICTを積極的に活用した指導力は道内の教育関係者からも定評がある。

同校によると、今回の協力校指定は2年目の事業指定となる阿部教諭の指導を経年的に情報収集する観点もあるという。

阿部教諭は前年度に引き続き「書くこと」に関する授業において、CBTを活用した指導と評価の一体化を目指す予定。「上磯中で得た知見と附属函館中のCBTを活用した実践を組み合わせることで、1人1台端末の指導の在り方を検討し、成果や課題を共有したい」と話している。

あすからの校務改善へ道教委

クラウド操作研修を開始

アンケート作成 約160人習得

道教委は10日、本年度1回目となるグーグルワークスペースフォーエデュケーション基本操作研修をオンラインで開催した。ICT教育推進課の田野大介主任指導主事がグーグルフォームを使った授業評価アンケートの作成方法を解説。約160人が受講し、あすからの校務効率化に向け研鑽を積んだ。

クラウドサービスの基本的な操作方法に関する説明・演習等を通して1人1台端末の活用に必要な知識・技能を習得し、授業等における1人1台端末の効果的な活用を図ることがねらい。

道立学校の職員約160人が参加した。

これや、収集した回答の並べ替え機能や簡易パスワードの設定方法などの各種機能を紹介した。

続いて演習を実施。参加者は自分のパソコンを使ってアンケートを作成。実際の授業における活用場面を体感した。

参加者からは「アンケートを早速使って校務省力化に取り組みたい」「短時間の内容だったが情報量が多く様々な活用方法を学習す